



## [サービス (Service) ] ページのフィールド参照

ここでは、Cisco Prime Infrastructure の [サービス (Services) ] タブにあるフィールドについて説明します。

- [\[ゲストユーザ \(Guest User\) \] フィールドの説明 \(1 ページ\)](#)
- [フィールド参照：パフォーマンス ルーティング ページの \[フィルタオプション \(Filter Options\) \] \(3 ページ\)](#)
- [モビリティ サービス エンジン \(MSE\) ページのフィールド参照 \(5 ページ\)](#)
- [フィールド参照：統合アクセス テンプレート \(13 ページ\)](#)
- [\[モビリティ サービス \(Mobility Services\) \] フィールドの説明 \(17 ページ\)](#)

## [ゲストユーザ (Guest User) ] フィールドの説明

次に、[サービス (Services) ] > [ゲスト ユーザ (Guest User) ] > [ゲスト ユーザの追加 (Add Guest User) ] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template) ] にあるフィールドについて説明します。

- [\[ゲストユーザ \(Guest User\) \] > \[ゲストユーザの追加 \(Add Guest User\) \] > \[新しいコントローラテンプレート \(New Controller Template\) \] > \[全般 \(General\) \] タブ](#)
- [\[ゲストユーザ \(Guest User\) \] > \[ゲストユーザの追加 \(Add Guest User\) \] > \[新しいコントローラテンプレート \(New Controller Template\) \] > \[詳細 \(Advanced\) \] タブ](#)

## [ゲストユーザ (GuestUser) ] > [ゲストユーザの追加 (AddGuestUser) ] > [新しいコントローラテンプレート (New Controller Template) ] > [全般 (General) ] タブ

次の表で、[サービス (Services) ] > [ゲストユーザ (Guest User) ] > [ゲストユーザの追加 (Add Guest User) ] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template) ] > [全般 (General) ] ページにあるフィールドについて説明します。

[ゲスト ユーザ (Guest User)] > [ゲスト ユーザの追加 (Add Guest User)] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template)] > [詳細 (Advanced)] タブ

表 1: [ゲスト ユーザ (Guest User)] > [ゲスト ユーザの追加 (Add Guest User)] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template)] > [全般 (General)] タブ フィールドの説明

フィールド	説明
ユーザ名	ゲスト ユーザ名を入力します。最大長は 24 文字です。
パスワードの生成 (Generate Password)	ゲスト ユーザ アカウントの作成スケジュールごとにユーザ名とパスワードを生成するには、このチェックボックスをオンにします。これを有効化すると、異なるパスワードが毎日 (選択した日数分) 支給されます。これを無効化すると (オフにする)、1つのパスワードが選択した日数の間支給されます。オプションとして、スケジュールごとに新しいパスワードを生成できます。
[パスワード (Password)]	パスワードを入力します。パスワードには、次のような要求事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードには少なくとも 8 文字必要です。</li> <li>小文字、大文字、数字、特殊文字の 4 種類の文字から 3 種類以上を使用してパスワードを作成する必要があります。</li> </ul>
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	[パスワード (Password)] フィールドに入力したパスワードを再入力します。
説明	ゲスト ユーザ テンプレートの説明を入力します。
免責事項	デフォルトの免責事項テキスト。
この免責事項をデフォルトにする (Make this Disclaimer Default)	免責事項テキストをこのゲスト ユーザ テンプレートのデフォルトとして設定するには、このチェックボックスをオンにします。

## [ゲスト ユーザ (GuestUser)] > [ゲスト ユーザの追加 (AddGuestUser)] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template)] > [詳細 (Advanced)] タブ

次の表で、[運用 (Operate)] > [運用ツール (Operational Tools)] > [ワイヤレス (Wireless)] > [ゲスト ユーザ (Guest User)] > [ゲスト ユーザの追加 (Add Guest User)] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template)] > [詳細 (Advanced)] にあるフィールドについて説明します。

表 2: [ゲスト ユーザ (Guest User)] > [ゲスト ユーザの追加 (Add Guest User)] > [新しいコントローラ テンプレート (New Controller Template)] > [詳細 (Advanced)] タブのフィールドの説明

フィールド	説明
ファイルからインポート (Import From File)	ゲスト ユーザ テンプレートを一括してインポートするには、このチェックボックスをオンにします。

フィールド	説明
プロフィール（Profile）	ゲスト ユーザが接続するプロフィールを選択します。
ユーザ ロール	<p>ドロップダウンリストから、ゲストユーザのユーザ ロールを選択します。ユーザ ロールは、管理者により事前に定義され、ゲストのアクセス（契約者、顧客、代理店、ベンダー、ビジターなど）にアソシエートされています。</p> <p>ユーザ ロールを使用して、ネットワーク内の特定のユーザに割り当てられた帯域幅の量を管理します。</p>
ライフタイム（Life Time）	<p>ゲスト ユーザ アカウントをアクティブにしておく期間を次のオプションのいずれかを選択して定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [制限付き（Limited）]：時間および分のドロップダウン リストを使用して、ゲスト ユーザ アカウントをアクティブにする期間を選択します。[制限付き（Limited）] のデフォルト値は、1 日（8 時間）です。</li> <li>• [無制限（Unlimited）]：ゲスト アカウントの有効期限の日付はありません。</li> </ul> <p>（注） Cisco Catalyst 3850 スイッチ（Cisco IOS XE 3.2.1）および Cisco 5760 Wireless LAN コントローラのゲストアカウントの設定時に [無制限（Unlimited）] を選択した場合は、ゲスト アカウントがアクティブになっている最大時間は 1 年になります。</p>
適用先（Apply to）	<p>ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [屋内区域（Indoor Area）]：キャンパス、ビルディング、フロア。</li> <li>• [屋外区域（Outdoor Area）]：キャンパス、屋外領域。</li> <li>• [コントローラ リスト（Controller List）]：選択されたプロフィールが作成されたコントローラの一覧。</li> <li>• [設定グループ（Config Groups）]：Prime Infrastructure で設定された設定グループの名前。</li> </ul>

## フィールド参照：パフォーマンスルーティングページの【フィルタオプション（Filter Options）】

次の表に、PfR モニタリングページで使用できるさまざまなフィルタ オプションを示します。

表 3: フィルター オプション (Filter Options)

フィルター オプション (Filter Options)	説明
[時間フィルタ (Time Filter)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのフィルタ時間は 72 時間です。事前設定されたいずれかのフィルタ時間を選択できます。</li> <li>[カスタム (Custom)] オプションを選択した場合は、開始日時と終了日時 ([開始 (From)] と [終了 (To)]) を選択できます。[カスタム (Custom)] オプションで 1 時間未満の時間を選択することはできません。</li> </ul>
VRF フィルタ (VRF Filter)	<ul style="list-style-type: none"> <li>境界ルータで検出された VRF を選択できます。</li> <li>PfR で制御されるネットワークに参加する VRF だけがこのフィルタに表示されます。</li> </ul>
[ロケーション グループ フィルタ (Location Group filter)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>[開始サイト (From Site)] と [終了サイト (To Site)] を選択できます。</li> <li>親サイトまたは子サイトを選択できます。親サイトを選択した場合は、PfR イベント テーブルに親サイトとそのすべての子サイトの詳細が表示されます。</li> </ul>
[イベント フィルタ (Events Filter)]	<p>次のイベントから 1 つ以上を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TCA : 到達不能、遅延、ジッタ、パケット損失などのメトリック違反が発生するたびに、DSCP に基づいて、マスター コントローラにより生成されます。また、TCA メトリックのいずれかを選択することもできます。</li> </ul> <p>メトリックの選択の影響は、[イベント (Events)] テーブルだけで、[メトリック (Metrics)] パネルには影響しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RC : TCA の修正のためにルートが変更されると、マスター コントローラによって生成されます。</li> <li>IME : RC が失敗し、トラフィック違反が修正できない場合、マスター コントローラによって生成されます。</li> </ul>
DSCP フィルタ	PfR で特定された DSCP のいずれかを選択できます。
[サービス プロバイダー フィルタ (Service Provider Filter)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>境界ルータの NetFlow データに基づいてサービス プロバイダーのリストが表示され、1 つ以上のサービス プロバイダーを選択できます。</li> </ul>

# モビリティ サービス エンジン (MSE) ページのフィールド参照

次に、MSE ページのフィールドについて説明します。

- [フィールド参照 : MSE ロケーション パラメータ](#)
- [フィールド参照 : MSE 通知パラメータ](#)
- [MSE アラーム詳細ページのフィールド参照](#)
- [MSE クライアント ページのフィールド参照](#)
- [フィールド参照 : MSE のコンテキスト認識型パートナーとタグ エンジン ステータス](#)

## フィールド参照 : MSE ロケーション パラメータ

次の表に、[サービス (Services) ]>[モビリティ サービス (Mobility Services) ]>[モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engines) ]>[コンテキスト認識型サービス (Context Aware Service) ]>[ロケーションパラメータ (Location Parameters) ]のフィールドを示します。

表 4 : Location Parameters

フィールド	説明
一般	
計算時間を有効にする (Enable Calculation Time)	<p>ロケーション計算に要する時間の計算を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p><b>注意</b> このフィールドを有効にすると、ロケーション計算にかかる時間が全体的に長くなるため、シスコ TAC 担当員の指示がある場合にのみ有効にしてください。</p>
OW ロケーションを有効にする (Enable OW Location)	<p>ロケーション計算の一部として外壁 (OW) 計算を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) ロケーション サーバでは OW ロケーション パラメータが無視されます。</p>
RSSI 破棄の相対時間 (Relative discard RSSI time)	最新の RSSI サンプルから見て、RSSI 測定が古いと見なされ廃棄されるまでの経過時間を分単位で入力します。デフォルト値は3です。可能な値の範囲は 0 ～ 99999 です。3 未満の値を指定することは推奨されません。
RSSI 破棄の絶対時間 (Absolute discard RSSI time)	最新のサンプルに関係なく、RSSI 測定が古いと見なされて廃棄されるまでの経過時間を分単位で入力します。デフォルト値は 60 です。可能な値の範囲は 0 ～ 99999 です。60 未満の値を指定することは推奨されません。

フィールド	説明
RSSI カットオフ (RSSI Cutoff)	<p>1 mW (dBm) に基づく RSSI カットオフ (遮断) 値をデシベル (dBs) 単位で入力します。この値に達するまでは、モビリティ サービス エンジンが常にアクセス ポイント測定を使用します。デフォルト値は -75 です。</p> <p>(注) RSSI カットオフ値よりも前に 3 つ以上の測定が使用可能な場合、モビリティ サービスは最も強力な 3 つ (またはそれ以上) の測定を計算に使用し、それ以外の弱い値をすべて破棄します。ただし、RSSI カットオフ値の後に弱い測定のみが使用可能な場合は、これらの値が計算に使用されます。</p> <p>注意 シスコ TAC 担当者の指示がある場合にのみ、変更を行ってください。この値を変更すると、ロケーション計算の正確さが低下する可能性があります。</p>
ロケーション フィルタリングを有効にする (Enable Location Filtering)	<p>有効にすると、クライアント ロケーション計算にのみロケーションフィルタが適用されます。</p> <p>ロケーション フィルタを有効にすると、現行ロケーションの推定に以前のロケーション推定値を使用できるようになります。これにより、ステーションリ クライアントのロケーション ジッターが低下し、モバイルクライアントの追跡機能が向上します。</p>
チョークポイントの使用 (Chokepoint Usage)	ロケーションを判別するためにチョークポイント プロキシミティを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。これは、チョークポイント プロキシミティを報告できるシスコ互換タグに適用されます。
フロア間競合でチョークポイントを使用 (Use Chokepoints for Interfloor conflicts)	<p>フロア間競合で正しいフロアを判別するために、チョークポイントを使用できるようにします。</p> <p>[なし (Never)]、[常時 (Always)]、または [フロアの曖昧さ (Floor Ambiguity)] を選択します。</p>
チョークポイント範囲外タイムアウト (Chokepoint Out of Range Timeout)	シスコ互換タグがチョークポイント プロキシミティ範囲を離れた後、このタイムアウト (秒単位) が経過すると、RSSI 情報を再び使用してロケーションが判別されます。
不在データのクリーンアップ間隔 (Absent Data Cleanup Interval)	非アクティブ要素をデータベースから削除する操作の間隔 (分単位) を入力します。
シスコ以外のアンテナにデフォルト ヒートマップを使用 (Use Default Heatmaps for Non Cisco Antennas)	ロケーション計算中にシスコ以外のアンテナにデフォルト ヒートマップを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションはデフォルトでは無効になっています。
移動の検出 (Movement Detection)	

フィールド	説明
個別の RSSI 変化しきい値 (Individual RSSI change threshold)	このフィールドは、個別 RSSI 移動再計算トリガーしきい値を指定します。 0 ~ 127 dBm の範囲内のしきい値を入力します。 Cisco TAC の指示がない場合は変更しないでください。
合計 RSSI 変化しきい値 (Aggregated RSSI change threshold)	このフィールドは、集計された RSSI 移動再計算トリガーしきい値を指定します。 0 ~ 127 dBm の範囲内のしきい値を入力します。 この値は、Cisco TAC の指示がない場合は変更しないでください。
新しい RSSI 変化数のパーセンテージしきい値 (Many new RSSI change percentage threshold)	このフィールドは、多数の新規 RSSI 移動による再計算トリガーのしきい値 (パーセンテージ) を指定します。 この値は、Cisco TAC の指示がない場合は変更しないでください。
RSSI 欠落数パーセンテージしきい値 (Many missing RSSI percentage threshold)	このフィールドには、多数の欠落 RSSI 移動による再計算トリガーのしきい値 (パーセンテージ) を指定します。 この値は、Cisco TAC の指示がない場合は変更しないでください。

## フィールド参照 : MSE 通知パラメータ

次の表に、[サービス (Services) ] > [モビリティ サービス (Mobility Services) ] > [モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engines) ] > [通知パラメータ (Notification Parameters) ] のフィールドを示します。

表 5: ユーザ設定の条件付き/ノースバウンド通知パラメータ

フィールド	設定オプション
レート制限 (Rate Limit)	MSE で通知を生成するレート (ミリ秒単位) を入力します。値 0 (デフォルト) を指定すると、MSE は可能な限り迅速に通知を生成します (ノースバウンド通知のみ)。
キュー制限 (Queue Limit)	通知送信のイベント キュー制限を入力します。MSE は、この制限を上回るイベントをすべてドロップします。
再試行回数 (Retry Count)	リフレッシュ時間が満了する前にイベント通知を生成する回数を入力します。このフィールドは非同期トランスポート タイプにのみ使用可能です。非同期トランスポート タイプでは通知の受信確認応答を出さないため、送信中に通知が失われる可能性があります。デフォルト値は 1 です。 (注) MSE データベースにはイベントが保存されません。

MSE アラーム詳細ページのフィールド参照

フィールド	設定オプション
リフレッシュ時間 (Refresh Time)	通知を再送信するまでに待機する必要がある時間を分単位で入力します。たとえば [カバレッジ領域内 (In Coverage Area)] 通知の対象としてデバイスが設定され、これがカバレッジエリア内で継続的に検出されるとします。リフレッシュ時間ごとに 1 回ずつ、通知が送信されます。
キュー オーバーフローで最も古いエントリをドロップ (Drop Oldest Entry on Queue Overflow)	(読み取り専用)。起動時以降にキューからドロップされたイベント通知の数。
Mac アドレスごと/宛先ごとにイベントをシリアル化する (Serialize Events per Mac address per Destination)	MAC アドレスが同じ一連のイベントを 1 つの宛先に連続的に送信するには、このオプションを選択します。

# MSE アラーム詳細ページのフィールド参照

次の表に、MSE アラーム詳細ページのフィールドの説明を示します。

表 6: MSE アラーム詳細

障害の原因 (Failure Source)	アラームを生成した MSE。
[オーナー (Owner)]	このアラームが割り当てられている担当者の名前、または空欄。
承認済み (Acknowledged)	ユーザがこのアラームを認知しているかどうかを示します。
カテゴリ (Category)	アラームのカテゴリ。アラームカテゴリは、MSE のモビリティ サービスです。
作成日 (Created)	アラームが作成された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM/PM)。
変更あり	最後にアラームが修正された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM/PM)。
障害の原因 (Failure Source)	アラームを生成した MSE。
作成元 (Generated By)	このフィールドには MSE と表示されます。
障害の原因 (Failure Source)	アラームを生成した MSE。

アラームのタイプによって、全般的な情報が異なる場合があります。たとえば、アラーム詳細の中に、ロケーションおよびスイッチ ポート トレーシング情報が含まれる場合もあります。

- [関連アラーム リスト (Related Alarm List)] : 特定の攻撃に関連するすべてのアラームを示します。
- [不正クライアントの詳細 (Rogue Client Details)] : 不正なクライアントに関する情報を表示します。



- [注釈 (Annotations) ] : このテキスト ボックスに新しい注釈を入力して [追加 (Add) ] をクリックすると、アラームが更新されます。注釈は[注釈 (Annotations) ] 表示ページに表示されます。
- [メッセージ (Messages) ] : アラームに関する情報が表示されます。
- デバイスの詳細 (Device Details)
- [スイッチ ポート トレース (Switch Port Tracing) ]
- [ロケーション通知 (Location Notification) ]
- [マップ位置 (Map Location) ]
- [デバイス イベント (Device Events) ]
- [関連履歴 (Related History) ]
- [監査レポート (Audit Report) ] : クリックして、設定監査アラームの詳細を表示します。このレポートは、設定監査アラームにのみ使用できます。

監査の矛盾が設定グループに施行されると、設定監査アラームが生成されます。施行が失敗すると、設定グループに[重大 (Critical) ] アラームが生成されます。施行が成功すると、設定グループに[あまり重大でない (Minor) ] アラームが生成されます。アラームには監査レポートへのリンクがあり、各コントローラの矛盾のリストを表示できます。

- [イベント履歴 (Event History) ] : [MSE アラーム イベント (MSE Alarm Events) ] ページを開き、このアラームのイベントを表示します。アラームページが複数ある場合は、ページ番号および他のページへ移動するためのスクロール矢印がページ上部に表示されます。これらのスクロール矢印を使用して、その他のアラームを表示します。

## MSE クライアント ページのフィールド参照

次の表に、MSE クライアント ページのフィールドの説明を示します。

表 7: MSE クライアント 詳細

フィールド	説明
MAC アドレス	クライアントの MAC アドレス。

フィールド	説明
[IP アドレス (IP Address)]	<p>クライアント IP アドレス。</p> <p>[IP アドレス (IP Address)] 列に表示される IP アドレスは、定義済みの優先順位によって決まります。使用可能な最初の IP アドレスが次の順序で [IP アドレス (IP Address)] テキスト ボックスに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv4 アドレス</li> </ul> <p>(注) このリリースでは、ワイヤレス クライアントのみが IPv6 アドレスを使用します。各クライアントは、最大 16 個の IPv6 アドレスと 4 個の IPv4 アドレスを持つことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv6 グローバル固有アドレス。このタイプのアドレスが複数ある場合は、クライアントが受信した最新の IPv6 アドレスが表示されます。これは、ユーザがグローバル IPv6 アドレスを 2 つ持っていたとしても、どちらかが期限切れ対象の古いルータ アドバタイズメントのアドレスである可能性があるためです。</li> <li>• IPv6 ローカル固有アドレス。IPv6 ローカル固有アドレスが複数ある場合は、最新のアドレスが表示されます。</li> <li>• IPv6 リンク ローカルアドレス。IPv6 クライアントの場合は、必ず 1 つ以上のリンク ローカルアドレスがあります。</li> <li>• 次のようなさまざまな IPv6 アドレス タイプがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リンクローカルユニキャスト：リンクローカルアドレスは、自動アドレス設定、ネイバー探索、ルータが存在しない場合などのために、単一リンクでのアドレス指定に使用するように設計されています。</li> <li>• サイトローカルユニキャスト：サイトローカルアドレスは、グローバルプレフィックスが不要な、サイト内部でのアドレス指定に使用するように設計されています。</li> <li>• 集約可能グローバルユニキャスト：集約可能グローバルユニキャストアドレスは、グローバルネットワーク内でクライアントを一意に特定します。パブリック IPv4 アドレスと同等です。クライアントは複数の集約可能グローバルユニキャストアドレスを持つことができます。</li> </ul> </li> </ul>
IP タイプ (IP Type)	<p>IP アドレス タイプは IPv4 および IPv6 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバル固有</li> <li>• 固有ローカル</li> <li>• リンク ローカル</li> </ul>

フィールド	説明
リフレッシュ時間 (Refresh Time)	通知を再送信するまでに待機する必要がある時間を分単位で入力します。たとえば[カバレッジ領域内 (In Coverage Area) ] 通知の対象としてデバイスが設定され、これがカバレッジエリア内で継続的に検出されるとします。リフレッシュ時間ごとに1回ずつ、通知が送信されます。
キュー オーバーフローで最も古いエントリをドロップ (Drop Oldest Entry on Queue Overflow)	(読み取り専用)。起動時以降にキューからドロップされたイベント通知の数。
Mac アドレスごと/宛先ごとにイベントをシリアル化する (Serialize Events per Mac address per Destination)	MAC アドレスが同じ一連のイベントを1つの宛先に連続的に送信するには、このオプションを選択します。
[ユーザ名 (User Name) ]	802.1x 認証に基づいたユーザ名。ユーザ名を使用しないで接続されたクライアントの場合は[不明 (Unknown) ] と表示されます。
タイプ (Type)	クライアント タイプを示します。
ベンダー (Vendor)	OUI から導き出されたデバイス ベンダー。
デバイス名 (Device Name)	ネットワーク 認証のデバイス名。たとえば、WLC、スイッチなどです。
参照先	接続しているデバイスのマップ位置。
VLAN	このクライアントのアクセス VLAN ID を示します。

フィールド	説明
[ステータス (Status)]	<p>現在のクライアント ステータス。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [アイドル (Idle)] : 正常な動作。クライアントアソシエーション (関連付け) 要求は拒否されていません。</li> <li>• [認証保留中 (Auth Pending)] : AAA トランザクションを実行しています。</li> <li>• [認証済み (Authenticated)] : 802.11 認証が完了しています。</li> <li>• [関連付け済み (Associated)] : 802.11 アソシエーションが完了しています。これは、クライアントがネットワークに現在接続されていることを示すために有線クライアントでも使用されます。</li> <li>• [関連付け解除済み (Disassociated)] : 802.11 ディスアソシエーション (関連付け解除) が完了しています。これは、クライアントがネットワーク上に現在存在しないことを示すために有線クライアントでも使用されます。</li> <li>• [削除予定 (To Be Deleted)] : ディスアソシエーション後にクライアントが削除されます。</li> <li>• [除外 (Excluded)] : セキュリティの脅威と見なされたため、システムによって自動的に無効化されています。</li> </ul>
インターフェイス (Interface)	クライアントの接続先であるコントローラインターフェイス (ワイヤレス) またはスイッチ インターフェイス (有線)。
プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [802.11] : ワイヤレス</li> <li>• [802.3] : 有線</li> </ul>
アソシエーション時間 (Association Time)	最後のアソシエーションの開始時間 (ワイヤレスクライアントの場合)。有線クライアントの場合、これは、クライアントがスイッチポートに接続した時間です。クライアントがアソシエートされているが、ネットワーク上で問題がある場合は空欄になります。
CCX (CCX)	Lightweight ワイヤレスのみ。

## フィールド参照 : MSE のコンテキスト認識型パートナーとタグ エンジン ステータス

次の表は、Aeroscout Tag Engine の [タグ エンジン ステータス (Tag Engine Status)] ページのフィールドについて説明しています。

表 8: パートナー エンジン ステータスのフィールド

フィールド	説明
パートナー ロケーション エンジン名 (Partner Location Engine Name)	パートナー エンジン名 ( <b>aeroscout</b> )。
バージョン (Version)	Aeroscout Tag Engine のバージョン。
説明	タグ エンジンの説明。
登録済み	Aeroscout Tag Engine と MSE の間の通信が確立されている場合は [はい (True) ] と表示されます。
Active	Aeroscout Tag Engine が実行中の場合は [はい (True) ] と表示されます。
ライセンス情報	Aeroscout Tag Engine で使用可能なタグの最大数。

コンテキスト認識型サービスに Cisco Tag Engine を選択した場合、[タグ エンジン ステータス (Tag Engine Status) ] ページには次の情報が表示されます。

次の表は、Cisco Tag Engine の [タグ エンジン ステータス (Tag Engine Status) ] ページのフィールドについて説明しています。

表 9: タグ エンジン ステータスのフィールド

フィールド	説明
タグ ロケーション エンジン名 (Tag Location Engine Name)	タグ ロケーション エンジンの名前 ( <b>Cisco</b> )。
バージョン (Version)	Cisco Tag Engine のバージョン。
説明	Cisco Tag Engine の説明。
Active	Cisco Tag Engine が実行中の場合は [はい (True) ] と表示されます。
ライセンス情報	Cisco Tag Engine で使用可能なタグの最大数。

## フィールド参照：統合アクセス テンプレート

ここでは、コンバージド アクセス テンプレートのフィールドについて説明します。

表 10: ワイヤレス管理フィールドの説明

フィールド名	説明
VLAN ID (Admin. VLAN ID)	選択したデバイスの VLAN ID。
[IP アドレス (IP Address) ]	選択したデバイスのワイヤレス管理 IP。
サブネットマスク (Subnet mask)	選択したデバイスに割り当てられたサブネットマスク。

表 11: WLAN フィールドの説明

フィールド	説明
SSID	無線 LAN の名前。
ID	無線 LAN の ID。SSID が 16 より大きい場合は、AP グループ名を手動で入力する必要があります。
セキュリティ	<p>ISE などの外部 Web サーバを設定するためのログイン ウィンドウをカスタマイズできます。WLAN では次のセキュリティ オプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [WPA2 エンタープライズ (WPA2-Enterprise) ]</li> <li>• [WPA2 パーソナル (WPA2-Personal) ]</li> <li>• [オープン (OPEN) ]</li> </ul> <p>ゲスト WLAN では、WebAuth (外部) オプションのみが使用可能です。</p>
[事前共有キー (Pre-Shared Key) ]	[WPA2 パーソナル (WPA2-Personal) ] を選択した場合、これは必須フィールドです。この値は英数字で、8 文字以上である必要があります。
[クライアント VLAN 名 (Client VLAN Name) ]	クライアント VLAN の名前。英数字を使用できます。
[AP グループ (AP Group) ]	AP グループ名は、WLAN とクライアント VLAN に関連付けられた AP にグループ名を割り当てるために使用されます。
[DHCP が必要です (DHCP Required) ]	これはオプションのフィールドです。WLAN の [DHCP が必要です (DHCP Required) ] チェックボックスをオンにします。これはワイヤレス クライアントに、IP アドレスを取得するために DHCP を使用することを強制します。スタティック アドレスのクライアントはネットワークにアクセスできません。
[無線 (Radio) ]	WLAN で使用される無線帯域。
[デバイスの分類 (Device Classification) ]	OUI と DHCP を使用して、スイッチのデバイス分類のオン/オフを切り替えることができます。

フィールド	説明
[デバイスプロファイリング (Device Profiling) ]	<p>デバイス プロファイリングのオン/オフを切り替えることができます。デバイス プロファイリングでは次の 2 種類のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP 属性に基づく ローカル プロファイリング</li> <li>• HTTP 属性に基づく RADIUS プロファイリング</li> </ul>
[クライアント除外 (Client Exclusion) ]	WLAN のクライアント除外のオン/オフを切り替えます。オンにすると、正常に動作していないクライアントが、タイムアウトになるまでネットワークにアクセスできないように、除外リストに追加されます。認証を過剰な回数試行したり、別のクライアントの IP アドレスを使用したりすると、クライアントが除外リストに追加される可能性があります。
[クライアント除外のタイムアウト(秒) (Client Exclusion Timeout (sec)) ]	クライアント除外のタイムアウト時間。
[セッションのタイムアウト(秒) (Session Timeout (sec)) ]	クライアントセッションのタイムアウト時間。タイムアウト時間が終了する前に、クライアントが再認証されます。

表 12: ワイヤレス無線フィールドの説明

フィールド	説明
[RF グループ名 (RF Group Name) ]	RF グループの名前。グローバルに最適化された方法で RRM を実行し、無線単位でネットワークの計算を実行するために、複数の MC が単一の RF グループの下に配置することが可能です。
[無線 2 GHz (Radio 2 GHz) ]	これはオプションのチェックボックスです。
[無線 5 GHz (Radio 5 GHz) ]	このチェックボックスは、デフォルトでオンになっており、必須です。このチェックボックスをオフにすることはできません
[レートの無効化 (Disable Rates) ]	このデータ レートが無効になります。クライアントはこのデータ レートを使用して、アクセス ポイントに接続することはできません。
[必須レート (Mandatory Rates) ]	クライアントはサポートされているデータ レートを使用してアクセス ポイントに接続する可能性があります、アクセス ポイントに関連付けるには、クライアントがこのデータ レートをサポートしている必要があります。
[サポートされるレート (Supported Rates) ]	このデータ レートをサポートするクライアントは、このレートを使用してアクセス ポイントと通信できます。ただし、クライアントはアクセス ポイントとの関連付けにこのデータ レートを使用する必要はありません。
国コード (Country Code)	特定の運用国を国コードで指定できます。国コードを設定すると、各無線のブロードキャスト周波数帯域、インターフェイス、チャネル、および送信電力レベルが国別の規制に準拠していることを確認できます。

表 13: ゲスト サービスのフィールドの説明

フィールド	説明
[アンカー コントローラ IP (Anchor Controller IP)]	ゲスト アンカー デバイスのワイヤレス管理 IP。
[アンカーグループ名 (Anchor Group Name)]	アンカー デバイスのグループ名。
[外部コントローラ (Foreign Controller)]	ゲスト アンカー デバイスが関連付けられた MC のワイヤレス管理 IP。

表「WLAN のフィールドの説明」を参照してください。

表 14: セキュリティ フィールドの説明

フィールド	説明
[Radius サーバ (IP) (Radius Server (IPs))]	Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS) サーバの IP アドレス。
キー (Key)	RADIUS サーバのパスワード。
[デバイス HTTP TACACS 認証 (Device HTTP TACACS Authentication)]	TACACS ベースのデバイス認証を有効にして、コンバージド アクセス デバイスにアクセスするには、ここを選択します。
[TACACS+ サーバの IP (TACACS+ Server IP(s))]	TACACS サーバの IP アドレス。
キー (Key)	TACACS サーバのパスワード。

表 15: アプリケーション サービスのフィールドの説明

フィールド名	説明
[NetFlow コレクタ(IP: ポート) (Netflow Collectors (IP:Port))]	[IP] : Prime Infrastructure サーバの IP アドレス。 [ポート (Port)] : NetFlow モニタがエクスポートされたデータを受信するポート。Cisco Prime Infrastructure の場合、デフォルトのポートは 9991 です。 (例 : 172.20.114.251:9991) 。
[WLAN-1 SSID 帯域幅(%) (WLAN-1 SSID Bandwidth(%))]	最初の WLAN に許可される最大帯域幅の割合を指定します。
[WLAN-2 SSID 帯域幅(%) (WLAN-2 SSID Bandwidth(%))]	2 番目の WLAN に許可される最大帯域幅の割合を指定します。
[WLAN-3 SSID 帯域幅(%) (WLAN-3 SSID Bandwidth(%))]	3 番目の WLAN に許可される最大帯域幅の割合を指定します。



フィールド名	説明
[ゲスト SSID 帯域幅(%) (Guest SSID Bandwidth(%)) ]	ゲスト WLAN に許可される最大帯域幅の割合を指定します。

表 16: ワイヤレス モビリティのフィールドの説明

フィールド名	説明
[役割 (Role) ]	モビリティ コントローラまたはモビリティ エージェント。
[コントローラ IP (Controller IP) ]	コントローラ デバイスのワイヤレス管理 IP。
[スイッチピアグループ名 (Switch Peer Group Name) ]	エージェントが追加されるピア グループ名。
[モビリティ エージェント IP (Mobility Agent IP(s)) ]	モビリティ エージェントのデバイスのワイヤレス管理 IP。複数の IP アドレスを入力する場合は、セミコロンを使用して IP アドレスを区切ります。
[ピア コントローラ IP (Peer Controller IP(s)) ]	ピア コントローラ デバイスのワイヤレス管理 IP。複数の IP アドレスを入力する場合は、セミコロンを使用して IP アドレスを区切ります。

## [モビリティ サービス (Mobility Services) ] フィールドの説明

次に、モビリティ サービス エンジンを実装するフィールドについて説明します。

- [モビリティ サービス](#)
- [モビリティ サービス](#)
- [MSE ハイ アベイラビリティ](#)

## モビリティ サービス

次の表に、[サービス (Services) ] > [モビリティ サービス (Mobility Services) ] > [Spectrum Expert (Spectrum Experts) ] ページのフィールドの説明を示します。

表 17: [Spectrum Expert (Spectrum Experts) ] ページのフィールドの説明

フィールド	説明
ホストネーム	ホスト名または IP アドレスを示します。

フィールド	説明
アクティブな干渉源 (Active Interferers)	Spectrum Expert が検出している干渉の現在の数を示します。
アラーム	検出された干渉によって影響を受けた可能性があり、Spectrum Expert で確認したアクセス ポイントの数。
アラーム	Spectrum Expert が確認したアクティブな干渉トラップの数。クリックすると、この Spectrum Expert のアクティブアラームに対してフィルタリングされている [アラーム (Alarm)] ページへアクセスします。
到達可能性ステータス (Reachability Status)	Spectrum Expert が稼働しており、データを Prime Infrastructure に送信している場合は、緑色で [到達可能 (Reachable)] と表示されます。それ以外の場合は、[到達不能 (Unreachable)] と赤で表示されます。
参照先	Spectrum Expert が無線クライアントの場合、ロケーションへのリンクが使用できます。それによって、Spectrum Expert の場所が有効範囲を示す赤いボックス付きで表示されます。
干渉 ID (Interferer ID)	異なる Spectrum Expert 間で一意の識別子。これは、疑似乱数によって生成される ID です。MAC アドレスに似ていますが、実際のアドレスではなく、干渉デバイスの検出に使用できます。
カテゴリ (Category)	干渉のカテゴリを示します。カテゴリには、[Bluetooth]、[コードレス電話 (cordless phones)]、[電子レンジ (microwave ovens)]、[802.11 FH]、[その他一般：周波数ホッピング (generic: frequency-hopped)]、[その他一般：連続 (generic:continuous)]、および [アナログビデオ (analog video)] があります。
タイプ (Type)	[アクティブ (Active)] は、干渉源が現在 Spectrum Expert で検出されていることを示します。[非アクティブ (Inactive)] は、干渉源が検出されなくなったこと、または Prime Infrastructure が到達できる干渉源はなくなったと Spectrum Expert が確認したことを示します。
Discover	干渉源が発見された時刻を示します。
影響を受けるチャネル (Affected Channels)	影響を受けるチャネルを示します。
影響を受ける AP の数 (Number of APs Affected)	Spectrum Expert が検出した Prime Infrastructure により管理されるアクセス ポイントの数、または Spectrum Expert がアクセス ポイントのチャネル上で検出した干渉源の数。アクティブな干渉源のみが表示されます。次の条件をすべて満たす場合、アクセス ポイントは影響を受けるとしてラベル付けされます。アクセス ポイントが Prime Infrastructure によって管理されている。Spectrum Expert がアクセス ポイントを検出している。Spectrum Expert がアクセス ポイントの稼働チャネル上の干渉源を検出している。
電源	dBm 単位で示されます。

フィールド	説明
デューティ サイクル (Duty Cycle)	% で示されます。100 % は最低値です。
重大度 (Severity)	干渉の重大度ランキングを示します。100は最低値、0は干渉がないことを表しています。
総干渉カウント (Total Interferer Count)	特定の Spectrum Expert から取得されます。
アクティブ干渉カウント チャート (Active Interferers Count Chart)	カテゴリ別に干渉をグループ化する円グラフを表示します。
チャンネルあたりのアクティブ干渉カウント (Active Interferer Count Per Channel)	異なるチャンネルのカテゴリ別にグループ化した干渉の数を表示します。
AP リスト (AP List)	Spectrum Expert によって検出されたアクセス ポイントの一覧を表示します。これらのアクセス ポイントは、アクティブな干渉源が検出されたチャンネル上にあります。
影響を受けるクライアントのリスト (Affected Clients List)	アクセス ポイントに現在認証されているクライアントの一覧を表示します。外部認証を行う場合は、[セキュリティ (Security) ] > [AAA] ページで特定の RADIUS サーバまたは LDAP サーバを選択できます。

## モビリティ サービス エンジン

次のセクションでは、[設計 (Design) ] > [モビリティ サービス (Mobility Services) ] > [モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engine) ] にあるページの各フィールドについて説明します。

- [モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engine) ] > [コマンドの選択 (Select a command) ] > [モビリティ サービス エンジンの追加 (Add Mobility Services Engine) ]

### [モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engine) ] [コマンドの選択 (Select a command) ] [モビリティ サービス エンジンの追加 (Add Mobility Services Engine) ]

次の表で、[設計 (Design) ] > [モビリティ サービス (Mobility Services) ] > [Mobility Services Engine] > [コマンドの選択 (Select a command) ] > [モビリティ サービス エンジンの追加 (Add a Mobility Services Engine) ] にある [テンプレートの詳細 (Template Detail) ] フィールドについて説明します。

表 18: モビリティ サービス エンジンの追加 (Add Mobility Services Engine)

フィールド	説明
デバイス名 (Device Name)	モビリティ サービス エンジンのユーザ割り当て名。
[IPアドレス (IP Address)]	モビリティ サービス エンジンの IP アドレス。
連絡先名 (Contact Name)	モビリティ サービス エンジンの管理者。
[ユーザ名 (Username)]	デフォルトのユーザ名は <b>admin</b> です。これは、MSE に対して設定されている <b>Prime Infrastructure</b> 通信ユーザ名です。
[パスワード (Password)]	デフォルトのパスワードは <b>admin</b> です。これは、MSE に対して設定されている <b>Prime Infrastructure</b> の通信パスワードです。

## MSE ハイ アベイラビリティ

次の表で、[サービス (Services)] > [モビリティ サービス (Mobility Services)] > [MSEハイアベイラビリティ (MSE High Availability)] にある [テンプレートの詳細 (Template Detail)] フィールドについて説明します。

表 19: ハイ アベイラビリティの設定

フィールド	説明
デバイス名 (Device Name)	プライマリ MSE とペアにするセカンダリ デバイスの名前。
[IPアドレス (IP Address)]	セカンダリ MSE のヘルス モニタ IP アドレスであるセカンダリ IP アドレス。
フェールオーバー タイプ (Failover Type)	フェールオーバー タイプを指定します。[手動 (Manual)] または [自動 (Automatic)] のいずれかを選択できます。10 秒後にシステムがフェールオーバーします。セカンダリサーバは、プライマリサーバからの次のハートビートを最大 10 秒間待機します。10 秒以内にハートビートを受信しないと、失敗が宣言されます。
フェールバック タイプ (Failback Type)	フェールバック タイプを指定します。[手動 (Manual)] または [自動 (Automatic)] のいずれかになります。
長時間のフェールオーバー待機 (Long Failover Wait)	長時間のフェールオーバー待機時間を秒単位で指定します。10 秒後にシステムがフェールオーバーします。最大フェールオーバー待機時間は 2 秒です。
セカンダリパスワード (Secondary password)	セカンダリ MSE で設定されたパスワード。

フィールド	説明
[セカンダリプラットフォームUDI (Secondary Platform UDI) ]>[参照 (Browse) ]>[クリックしてアクティブにする (Click Activate) ]	MSE HA をアクティブにするには、セカンダリ UDI の永久ライセンスまたは評価ライセンスを適用します。

## コネクテッド モバイル エクスペリエンス

次の表に、以下の [テンプレートデータ (Template Data) ] フィールドを示します。

- [サービス (Services) ]>[モビリティ サービス (Mobility Services) ]>[コネクテッドモバイルエクスペリエンス (Connected Mobile Experiences) ]
- [サービス (Services) ]>[モビリティ サービス (Mobility Services) ]>[モビリティ サービス エンジン (Mobility Services Engines) ]>[CMXを管理するにはここをクリック (Click Here to manage CMX) ]

表 20: コネクテッド モバイル エクスペリエンス

フィールド	説明
[IPアドレス (IP Address) ]	CMX の IP アドレス。
デバイス名 (Device Name)	CMX のユーザ定義名。
ユーザ名	デフォルトのユーザ名は admin です。これは、CMX 用に設定される Prime Infrastructure 通信ユーザ名です。
[パスワード (Password) ]	デフォルトのパスワードは admin です。これは、CMX に対して設定されている Prime Infrastructure の通信パスワードです。
[所有者 (Owner) ] (任意)	CMX の一意のユーザ割り当て値を指定します。

